

■令和5年度 浜松市美術館評価

基本理念

「明日への希望を見出す美術館」

誰もが気軽に立ち寄れる憩いの美術館であることで、美術との出会いの場を広げます。

都市の拠点として国内外の優れた作品や地域ゆかりの作品の鑑賞の機会、人々の参加・交流により市民が心豊かになる美術館を目指します。

総評

世界的な広がりを見せていた新型コロナウイルスの流行が、来館者数に大きく影響していたが、令和5年度に5類へ移行したことから美術館は少しずつ賑わいを取り戻している。

令和5年度は年間を通じて、浮世絵、アニメーション原画、仏像などジャンルの異なる展覧会を開催し、幅広い世代の来館者が見られ、基本理念である「誰もが気軽に立ち寄れる美術館」を達成した。

1 展覧会

優れた美術を鑑賞できる展覧会を開催し、来館者の裾野を広げます。

(1) 平常展

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
劉生展	R5/4/22～6/11	44日	13,827人	45,000人	96%	86%
みほとけ展	R5/10/14～12/3	44日	13,819人			
辰年を寿ぐ展	R6/2/10～3/13	40日	15,695人			
-	-	128日	43,341人	-	-	-

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

内部評価

成果	改善点
■劉生展 ・浜松ゆかりの洋画家・岸田劉生（1891-1929）を支援した山本貞治郎（旧富塚村出身、1890-1923）の没後100年を記念し、劉生の作品と当時の様子がわかる写真をパネルにして展示した。（岸田劉生3作品、中川一政1作品、中島正貴2作品） ・これまであまり知られていなかった劉生と浜松の関係と、同時期に起こった武者小路実篤を中心とした「新しき村運動」を紹介することができた。 ・展覧会の内容をInstagramに掲載することにより、これまで行方不明であった山本貞治郎の遺族から連絡をいただき、貴重な資料を借用し、研究を進めることが出来た。 ・その結果、令和6年度に開催した「浜松ゆかりの洋画展」において、研究成果を報告することができた。	・小展示室のため紹介できる作品やパネルが少なく、展示の趣旨を十分に紹介できなかった。今後は、簡単な解説ペーパーなどを用意し、お客様の理解を助ける工夫をしたい。
■辰年を寿ぐ展 ・辰年の企画として、浜松市美術館所蔵の「龍」をモチーフとした作品を展示した。（古田晴久1作品、能勢海旭1作品） ・両作家は、市展の審査員を務めた浜松市出身の画家・書道家である。同時開催の市展の観覧客の中には両作家を知る人もおり、親しみをもって見ていただく事ができた。	・両作家の研究まで及ばず、来館者や他館の問い合わせに十分に答えることができなかった。両者は、浜松市美術館の創設にも尽力した作家であるため、今後、研究を進めていきたい。

外部評価

評価する点	改善点	事務局（回答）
■劉生展 ・岸田劉生が浜松にゆかりのあることを知ることができ有意義な展覧会だった。 ・令和6年度洋画展で研究成果を見ることができた。浜松の様子がよくわかり、芸術家を支える文化が浜松に宿っていたことを実感した。 ・岸田劉生を支援した山本貞治郎の存在を示したことは意義深い。またご遺族から貴重な資料を借用できたことはこの上ない成果である。 ・教科書にも出てくる有名人が、浜松市と関係があり、その絵を身近に見ることができることに誇りに感じた。所蔵品を地道に継続して展示して行くことが、浜松美術館を知ってもらうことに大切であると感じた。 ・展覧会を契機として新出資料を発掘されたとのこと、浜松ゆかりの作家・資料に関する調査研究の進展を見たことは市美術館として重要な成果であると考えられる。	・せっかくの展覧会であったが、スペースと作品点数が残念だった。 - 武者小路実篤の作品を紹介することで、新しき村運動を明確にすることができ、浜松市美術館誕生の歴史も深堀することができると思う。 ・展覧会の事前調査研究の成果を会期前にパンフレットに記載するなどしてアピールできたら良いと思う。 ・他にも埋もれた作品や作家などを探すことも今後の課題としていただきたい。	・劉生展は、R6 洋画展で再度岸田劉生を取り上げるための布石であり、洋画展では他の2作家とともに、戦前・戦後の浜松の文化活動を再評価した。 ・洋画展では岸田劉生と併せて武者小路実篤を取り上げた。その際、武者小路の作品や写真画像を通して、新しき村運動と浜松の関係も紹介した。 ・研究内容や成果にもよるが、チラシへの記載を検討するとともに、SNSや講演会等での情報発信を継続する。作家と浜松との関係についての研究を継続していく。
■辰年を寿ぐ展 ・辰年の企画として、美術館所蔵品を鑑賞するよい機会だった。 ・1階奥の展示スペースを利用した展示は、ささやかながらも意義のある展示として良いと考えられる。	・浜松市美術館の創設に尽力した作家を取り上げたということで、難しいとは思いますがそういった戦前戦後の郷土の作家の研究活動が今後市美術館の学芸員によって進むと良いと考える。	・今後も継続して郷土ゆかりの作家を調査研究し、展示に還元していきたい。

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
第71回市展	R6/2/10～3/13	28日	4,371人	5,000人	87%	80%

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

内部評価

成果	改善点
・大賞受賞作品を令和6年度「浜松ゆかりの洋画展」開催期間中に通路に展示し、多くの人に鑑賞していただくことができ、市展の周知につながった。 ・例年、作品の天地がわかりにくい作品があったため、募集要項に「作品天地確認票」及び「作品シート」を設け、天地を示してもらうようにした。 ・展示を受入順としたことで、展示作業時間を短縮した。 ・審査結果をホームページ及び美術館入口付近で掲示したことにより、審査結果通知の記入、校正、返信が不要となった。 ・同じく、募集要項をホームページに掲載したことで、各自応募票を印刷して利用してもらうことができるようになった。 ・英語・ポルトガル語版の募集要項を作成し、ホームページに掲載したことで、市内在住の外国籍の方の応募へとつながった。 ・募集要項の記入欄について、簡潔な表記に改善し、不要な項目（性別、年齢）を削除した。	・搬入受付から審査日・開催日まで日程が短かったため、目録作成に苦慮した。目録校正等は時間を要するため、余裕をもってスケジュールを組みたい。 ・例年、目録作成作業に多くの時間と労力を費やしている。搬入時に難解な字等は確認をしているが、出品者への再確認を要する事態となっている。今後は募集要項に、常用漢字を使用する旨を明記する。 ・団体搬入と秋野不矩美術館へ搬入は、作業時間に余裕を持たせるため、団体搬入を午前にする。 ・ホームページ掲載と入口付近掲示の日程がずれてしまったが、今後は同日とし、募集要項に、審査結果掲示は開幕前日までとすることを明記する。 ・審査結果発表日に選外作品返却は行わない旨を募集要項に明記する。 ・審査結果に関する電話での問合せには回答しない旨を募集要項に明記する。 ・動画撮影禁止の旨を募集要項に明記する。（動きながら撮影すると、他の作品を壊す可能性があるため） ・入賞者だけでなく選外の方にも引き続き応募してもらうよう声掛けをしていく。 ・協働センター等で活動する絵画団体への呼びかけを行っていく。

外部評価

評価する点	改善点	事務局（回答）
・応募に対してや審査結果報告等、出品者のことを良く考えたスムーズな運営になったことと思う。 ・募集要項の英語・ポルトガル語版の作成は良かった。 ・目録制作のための不明瞭な文字の確認等、出品者市民に寄り添った非常に丁寧な仕事が評価できる。	・市展を観て帰ってしまう方もいたため、第3展示室に寄るためのアナウンスを工夫してほしい。様々な対応を検討しているが、応募点数につながらないのが残念である。 - 絵画中心になるのはある程度やむを得ないが、他のジャンルへの呼びかけもしていただきたい。 ・インターネット時代に絵画や彫刻制作を日々の楽しみや趣味とする方も減少傾向にあるのではないかと考えられる。高校美術部への呼びかけやその他、文化芸術の制作に親しむ方々や出品者の掘り起こしのための様々な工夫も今後必要になるのではないかと考えられる。	・案内掲示に加えて、目録などに館内のレイアウト図を入れ、第3展示室にも回るよう順路を示した。学生や協働センターなどで活動するサークル、教室などに呼びかけをしていく。 - 令和6年度も外国語対応済。（英語、ポルトガル語） ・応募数が少ない分野は、学生や協働センターなどで活動するサークル、教室などに呼びかけをしていく。

(2)特別展

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
北斎展	R5/4/22～6/11	44日	13,827人	15,000人	92%	86%
新・山本二三展	R5/7/8～9/10	60日	42,809人	30,000人	143%	92%
-	-	104日	56,636人	-	-	-

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

内部評価

成果	改善点
■北斎展 ・世界的に認知度の高い葛飾北斎の作品を125点展示し、市外からの来館者も多く観覧者数は1万3000人超を記録した。 ・初期の作品から《東海道五十三次》や《富嶽三十六景》等の有名作品、晩年の肉筆画まで北斎の作品遍歴を見ることができたため、多くの小中学生が来館した。 ・北斎に興味・関心のある方からの要望に応え、予定より多く学芸員によるギャラリートークを開催した。 ・出展作品の所有者であり、本展監修者でもある中右先生による講演会は非常に好評で定員50名が満席となった。 ・市立看護学校では、学芸員のアドバイスをもとに担当教員が鑑賞の仕方や北斎に関する授業を行い、実際に鑑賞授業を行った。当日は多くの学生から「北斎について知識が広がった」、「作品の鑑賞を通して観察力や創造力が高まった」等の意見が多く聞かれた。 ・直営展にもかかわらず、市関係課と調整し実行委員会同様の形態で物販を行い、見込みより多くの売上げがあった。	・浜松城公園の大河ドラマ館のチケット提示で20%引等の取組や名義共催という形で新聞や雑誌への広報等を行ったが、目標である2万人を達成することができなかった。 ・今後はターゲットを意識し、効果的な広報を考えていきたい。
■新・山本二三展 ・新型コロナウイルス感染症が5類へ移行して初めての夏休み展覧会となり、令和元年以降4年ぶりに4万人を超える来館者数を記録した。 ・コロナ禍に導入したピープルカウンターによってホームページで混雑状況をリアルタイム表示したことで、事前に混雑状況を把握することができたため、大きな混乱やトラブルなく、良い鑑賞環境を維持できた。 ・初期から最新作まで手書き背景画に加え、映像での作品解説を約10箇所で開催した。カメラワークに合わせて制作されたアニメーション背景画ならではのテクニックをわかりやすく紹介する企画が好評だった。 ・作品を覆うアクリルに低反射フィルムを貼り、見やすいと来館者から好評だった。 ・展示作品の名称、作品解説パネルなどすべての文字情報を英語とポルトガル語に翻訳した案内を展示室前で配布した。配布数は英語は300部以上、ポルトガル語は50部以上であり、外国籍の観覧者に展示を楽しんでいただくことができた。 ・当館では初の試みとして、チラシ等のデザインを専門業者へ委託した。十分な期間をとり、綿密な打合せと校正を経て制作したデザインは、来館者用のチラシが無くなるほど好評であった。 ・毎月23日を「二三の日」とし、23人目の来館者にプレゼントをする企画や、作品を拡大したスクリーンを背景として撮影できるスポットの設置など、SNSでの拡散を狙った広報や宣伝を積極的に行うことで、来館者増につながった。 ・過去作品にまつわるエピソードや新作に関するインタビュー映像をアトリエで撮影し、浜松でしか見られない特別映像として館内放映したことで、アニメーション美術の第一線で活躍してきた二三氏の現在の活動について紹介することができた。	・順路がわかりづらいとの指摘があり、表示を増やすなどの対応を行った。 ・受注生産のサイン入り複製画を販売したが、二三氏のご逝去されたため、サインが入れられなくなった。これについて、注文済みのお客様への対応を複製画販売業者が独断で行い、当館と情報共有がなされなかったことで、お客様へのオペレーションが食い違うなどのトラブルが生じた。予期せぬことであったが、トラブルを未然防止できるよう速やかな対応を行いたい。

成果	改善点
・本展覧会のために、令和5年3月に制作していただいた最新作《桜舞う浜松城》を初公開した。下絵や、アトリエで撮影した「地塗り」作業の様子を映した映像を併せて展示することで、細部まで描きこまれた本作品がアニメーション美術作家ならではのスピード感をもって制作されたことがよくわかる展示となった。 ・二三氏は会期中の8月19日にご逝去された。このため、急遽お悔みのパネルを展示最後に掲示する対応をした。また、惜しくも新作《桜舞う浜松城》が、完成された作品としては最後のものとなった。	

外部評価

評価する点	改善点	事務局（回答）
■北斎展 ・北斎作品の遍歴を鑑賞することができた。また、有名な作品以外に触れるよい機会になった。 ・来場者1万3千人超は評価できる。小中学生や看護学生の来館、鑑賞授業など未来につながることで有意義だと思う。講演会、ギャラリートークも成果を上げることができた。 ・テレビや雑誌などでよく知られた日本が誇る北斎の絵を、一堂に見られたのは、楽しい限りである。 ・有名作品の展示やギャラリートークの積極的な開催などを通して利用者の期待に応える内容として仕上げられた点、評価される。また、公立館直営の制約からくる物販運営の課題を乗り越えられたとのこと、関係部署との連携などの努力が実を結んだものといえる。	・今後も良い企画は来場者増につながると考えていただきたい。 ・音声ガイドを600円で貸し出していたが、文字で説明したキャプションを補うものとして有益と思われる。観覧料1200円のところ、600円は手が出しにくいのではと思われる。スマホを利用した安価で簡単な方法を検討していただきたい。	・今後も質の高い展覧会を目指して取り組んでいく。 ・北斎展での音声ガイドは1,128人の来館者が利用した。 ・みほとけ展ではガイド音声にテレビ静岡の全アナウンサーが各仏像の音声を担当し好評であった。 ・料金については音声ガイド業者の定価であるため変更は難しかった。今後はWi-Fi環境を整備し、音声ガイドアプリやスマホの活用も検討する。
■新・山本二三展 ・夏休み期間の展覧会は、幅広い年齢層が楽しめる有意義な企画で、毎年楽しみにしている。幻想的な作品等に引き込まれ、時間を忘れて鑑賞した。 ・駐車場がいっぱいで、1時間半待ちだったので断念した。 ・英語とポルトガル語で文字情報を翻訳した案内紙を置いたことは市民の多様化に対応しており、非常に評価できる。 ・来場者数、ホームページ上での混雑状況表示、英語・ポルトガル語表記、「二三の日」、インタビュー映像の館内放映など新たな試みやアイデアの実施はとても良い。		

評価する点	改善点	事務局（回答）
・非常に多くの来場者を迎えつつ適切な運営により良い鑑賞環境を維持されたこと、揭示物の多言語化や浜松会場独自の映像制作など、来場者の満足度を高める工夫が凝らされていることなど、おおいに評価される。 ・背景画として卓越した才能を見せる二三氏の姿を分かりやすく紹介することができていた。会期中に御逝去され、残念でならない。	・ポスターのデザインのよさが集客を招いた実績をきちんと残していきたい。	・新・山本二三展でデザインを別注した実績を活かすよう、今後も展覧会予算の範囲内で可能な限り検討したい。

(3)企画展

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
みほとけのキセキⅡ	R5/10/14～12/3	44日	13,819人	25,000人	55%	93%

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

内部評価

成果	改善点
・遠州・東三河地域の「しられざる仏像」（市指定級・未指定の作例）を周知することができた。特に、長福寺の阿弥陀如来坐像は、これまでその存在が知られておらず、本展に向けた調査研究によって、平安時代の作品であることが見いだされた。県・市指定級の作例でも展覧会に向けた調査研究の過程で新たな知見が見いだされた。林慶寺の大日如来坐像は寄木造りではなく割矧造りであること、後補とされていた両腕や脚部や当初のものと判明した。応賀寺の四天王立像は平安時代後期の作である可能性が見いだされた。 ・岩佐光晴氏、山岸公基氏、田島整氏、島口によるシンポジウムでは、遠州の仏像と駿河、伊豆、三河の仏像を比較検討することで、遠州地域の仏像の傾向や仏教文化圏の特徴が浮き彫りになった。地域情報センターのホールが満席となり好評であった。・鹿島美術財団による助成研究「館浜名湖文化圏における仏教文化の基礎的研究」の成果を展示構成や図録掲載論考、解説に生かすことができた。 ・受賞はならなかったが、日本アート評価保存協会「秀逸企画賞」の推薦を受けた。 ・久保沙里菜氏等、仏像インフルエンサーを活用したイベントが成功した。 ・小中学校との連携による仏像講座、教育普及プログラム等、多種多様な講座を実施することができた。活動内容が月間「教育美術」（2024年5月）に取り上げられた。	・玖延寺の薬師如来立像は、本展に向けた調査研究において「一日造立仏」の類である可能性が見いだされた。展示ラインナップや予算確定後の発見であったため、展示は叶わなかったが、調査内容のパネル展示と図録へ論考を掲載した。 ・三ヶ日の隣海院の阿弥陀如来坐像、二天立像、岩室廃寺の菩薩形立像等、世の中に知られていない作例が見いだされたが、展示は叶っていない。今後、これらの作例をさらに取り上げていきたい。 ・「みほとけのキセキⅠ」に比べ、来館者数は9000人減となった。「みほとけのキセキⅠ」では、10点の重要文化財の展示があったが、今回は所蔵品の續仏を除けば出展はなかったことが要因の一つと考えられる。仏像の価値は文化財指定のランクのみで語るべきでないことは言うまでもないが、当館は令和6年3月に「公開承認施設」となったことから今後の展覧会では、このアドバンテージを存分に生かしたラインナップを検討していく。 ・シンポジウムにて駿河、伊豆地域の仏像との比較を行った。これまで遠州・東三河地域に絞って調査研究を行ってきたが、シンポジウムの成果を生かす意味でひとまず駿河地域にも研究範囲を広げ、今後成果を示したい。

外部評価

評価する点	改善点	事務局（回答）
・来館者の年齢層が高い気がしたが、子供向けクイズコーナーやワークシートが用意され、鑑賞者拡大の工夫が見られた。 ・仏像を様々な角度から、拝見でき、新しいことを発見する楽しさがあった。 ・作品搬送作業の映像が効果的で、視聴者は、仏像に対してより興味関心が広がったと思う。 ・仏像の影が後ろに映し出されたり、底からの写真が展示されていたりと、要所要所に効果的な見せ方があり、素晴らしいと感じた。 ・林慶寺の大日如来坐像の新知見は素晴らしい成果である。 ・調査研究の進展や多様な普及活動など、展覧会開催を軸として大変意欲的に活動を展開している。 ・遠州・東三河地域の仏像をきちんと紹介し、学術的価値を高めた点で大いに評価したい。東西の常に境となる浜松市の魅力を紹介できたことも素晴らしい。	・人気シリーズ企画となっており、博物館施設の根幹となる「調査研究」⇔「公開」⇔「保存」のリンクをうまくまわし、館の独自性を示す事業としてさらに育てていかれることを期待したい。 ・展覧会をきっかけに、重要文化財指定となる造形物が出てくると展覧会としての価値が高くなると感じる。今後、展示作品の動向も注視していく必要がある。	・展覧会終了後も調査研究を継続し、新たな成果も得られている。今後、その研究成果を展示で披露する機会を検討中である。 ・展覧会出陳後もその作例の調査研究を継続し、その保存と情報発信に寄与していくことが使命と考える。

2 教育普及活動

市民の感性を育むため、美術に触れる機会と他者とのつながりを提供します。

(1) 団体鑑賞

内容		参加者数、実績（人）	
学校や施設等の団体利用の受入れ		2,432人	
内部評価	成果	改善点	
・新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、コロナ禍以前の団体申込数に戻りつつある。特に、「新・山本二三展」の学校等が夏休み期間の開催でありながら20団体からの申込みがあった。		・引き続き庁内や市内学校掲示板にて、団体鑑賞受付の案内を出したり、SNSで情報発信したりと、周知活動を継続する。特に、浜松ゆかりの展覧会における団体申込数増となるよう取り組んでいく。また、教員研修に積極的に参加するなど直接周知できる機会を多数設けるようにする。	
外部評価	評価する点	改善点	事務局（回答）
・夏休み期間の特別展は、楽しみにしている方が多く、その期待の大きさが、団体数増につながっていると思う。 ・アニメ関係の山本二三展の開催時期が適切であったため、学校の夏休みを利用した団体鑑賞が増えたと思われる。 ・新型コロナウイルスの第5類移行後、どの分野においてもコロナ禍以前に戻ったものとそうでないものがあるが、団体申込数が復調しつつあるのは、市美術館に対する利用者の期待の表れとして評価される。		・団体受付の案内を広く周知することが、今後の来館者数増（市展の応募にも）につながると思う。	・学校への案内は市教研、専用回線掲示板を通して行っている。今後、ホームページやSNSなどを通じて団体利用について周知していく。

(2) ギャラリートーク

内容		参加者数、実績（人）	
学芸員・作家等による作品解説		445人	
内部評価	成果	改善点	
・「みほとけのキセキⅡ」では、学芸員によるギャラリートークに加え、仏像好きフリーアナウンサーの久保沙里菜氏との対話型ギャラリートークを実施した。 ・仏像所有者による展示解説「おっさまトーク」を実施した。 ・当初予定していたものに加えて、小中学生の来館、教員研修や県文化財講習等の機会に学芸員によるギャラリートークを実施した。		・作家によるギャラリートークや、ゲストを迎えたトークセッションは来館者から好評である。展覧会に応じて可能な限りこうした機会を検討していきたい。	
外部評価	評価する点	改善点	事務局（回答）
・ギャラリートークは、その作品の背景や意味をより理解できる大切なものである。時宜を得たギャラリートークを今後も多く実施していただきたい。 ・ギャラリートークや講演会について、講師や実施手法についての工夫が見られる。生き生きとした活動の様子を利用者に見ていただけるのは、長い目で見て美術館にとって有益なことと思われる。		・学芸員による講座は、その講座を受けたいとのニーズがどこにあるか、各方面と協議して、どこに、どのようにPRしていくかが課題であると思われる。 ・回数や参加人数の拡大の工夫を期待する。当日会場で参加できない人のために、自宅で視聴できるように配信してほしい。	・より多くの方に還元できるようPRの手法、対象、範囲について検討しながら進めていく。 ・ギャラリートークは予定回数5回に対し、13回実施した。また、オンライン視聴については、Wi-fi環境を整備するなど検討をし、環境が整えば、Instagramでの配信が可能となる。

(3) 講演会

内容		参加者数、実績（人）	
作家・専門家等による講演		336人	
内部評価	成果	改善点	
・「みほとけのキセキⅡ」では、シンポジウム「仏像フロンティアー遠州地域の仏教文化圏ー」を開催した。岩佐光晴氏、山岸公基氏、田島整氏とともに遠州の仏像と、駿河、伊豆、三河の仏像の比較を行った。全国から参加者が集まり、研究者の参加も目立った。お笑い芸人・みほとけによる仏像トークショーは、ネタを交えながら仏像について楽しく基礎から学ぶことができ好評であった。		・「みほとけのキセキⅡ」のシンポジウムは、複数の研究者と連携した点、館外施設を借用し、大きな規模で開催した点において好事例となった。今後のイベント開催の参考事例としたい。	
外部評価	評価する点	改善点	事務局（回答）
・講演会の内容や開催の仕方が工夫されていて、聞いてみたいと関心を持った。 ・みほとけ展Ⅱの講演会は一般層だけでなく研究者の参加があったということで浜松市美術館の名前を全国に知らせる契機になったのではと思う。		・近隣の美術関係者や文化施設関係者と浜松市のこれからの文化継承や新しい芸術振興の形を考えるような会議や、小規模でもシンポジウムなどを行ったりし、地元浜松で今を生きる文化芸術関係者とのつながりを構築してもよいのではないかな。	・これまで静岡文化芸術大学や静岡県立美術館との共同シンポジウム、展覧会に応じた研究者によるシンポジウムを開催してきた。今後も展示内容に応じて可能性を模索していきたい。

(4) ワークショップ

内容		参加者数、実績（人）	
展覧会の内容に応じた表現・鑑賞活動		56人	
内部評価	成果	改善点	
・「みほとけのキセキⅡ」では、「子どもわくわく仏像鑑賞教室」を実施し、親子8組16人の参加があった。仏像のポーズや表情、大きさや印象によって参加者でテーマごとに対話したり、体全体を動かして仏像のポーズを真似したりして、仏像に親しんだ。 ・「新・山本二三展」では、「ゾートロープをつくってみよう」と題したアニメーションの原理を学ぶことができる内容のワークショップを実施した。セロハン紙に自分で描いた絵が、自分で描いた背景の中で動く様子を見て、手書きのアニメーション制作への興味や理解につながった。		・ワークショップとは、その活動を通して参加者にどのような学びの機会を提供するのか、開催中の展覧会、展示作品や館藏品、館蔵作品作家や地域ゆかりの作家との関連性を考慮したうえで実施する必要がある。美術館でその時期に開催する意義を見据えた計画をしたい。	
外部評価	評価する点	改善点	事務局（回答）
・ワークショップは、参加することで作品への興味や広がり、鑑賞の仕方が変わる貴重な体験だと思う。 ・「子どもわくわく仏像鑑賞教室」の内容がとても興味深く、仏像の専門知識に縛られず、仏像のポーズを真似するなど、仏像を身近に感じることができたと思う。 ・「新・山本二三展」では、実際にアニメーションづくりを体験することで、子供たちの夢につながったと思う。 ・「みほとけのキセキⅡ」の親子ワークショップや「新・山本二三展」のゾートロープを作ってみようなど展覧会にちなんだ非常に興味深いワークショップが行われている。 ワークショップ、出前講座、実習、体験、研修はいずれも次世代を育成するために必要な取り組みで、評価できる。		・1年に一度でも他の文化芸術に関係する外部機関と連携して相乗りでワークショップ等を実施することで普段行き来のないそれぞれのファン層にも訴えかけることができるのではないかと。 教育普及活動はすぐに成果が出るとは限らないが地道に継続していただきたい。	・外部機関との連携による来館者拡充に向けて、展覧会共催者とその方策について協議を進めていく。 ・子供対象のワークショップは、子供の美術に親しむ心を育み、将来的に地域の文化人育成や文化芸術の向上を図ることにつながる。今後も展示内容に応じた活動を展開していく。

(5) 出前講座

内容		参加者数、実績（人）	
美術館の収蔵品や展覧会等に関する講座、出張授業等（※他団体等主催事業への参加含む）		1,476人	
内部評価	成果	改善点	
・大学、協働センターのカルチャー、教員研修や文化財研修等、多様な要望に応え講座を実施した。特に市内の大学（聖隷クリストファー大学、浜松学院大学、静岡文化芸術大学）との連携講座は過去5年間継続的に実施している。		・以前から交流のあった静岡大学との関わりがここ1～2年希薄になっている。今後の連携のあり方を模索する必要がある。	
外部評価	評価する点	改善点	事務局（回答）
・美術館や展覧会の魅力を周知していただくための有意義な機会を、積極的に開催されていることが数に表れており素晴らしい。		・協議会資料では、それぞれの項目に対する実績が人数で示されているが、実施回数や時期（〇〇展で〇回など）の記載があると、分析がしやすいように思われる。特に出前講座については内容が多様であるように見受けられるため、簡略な内訳（出前先・内容や回数など）とあわせて示していただくと、職員の方々のご努力が適切に評価される機会になるのではないかと。	・令和6年度以降の資料において改善する。

(6) 博物館実習、職場体験、教員研修など

内容		参加者数、実績（人）	
実習・研修等（中学生の職場体験、大学生の博物館実習、教員研修等）の受入れ		91人	
内部評価	成果	改善点	
・博物館実習（大学生）、職場体験（中学生）は例年通りの規模・人数で実施した。教育センターと連携した教員研修は2年目となるが、「みほとけのキセキⅡ」の会期中に実施し、初任者の教員に地域ゆかりの文化財の価値や魅力を説明することができた。		・美術館での教育活動とその成果、可能性に関する講義と、展示室内で本物の作品に触れる機会のバランスを図る形で研修プランを構築していく。	
外部評価	評価する点	改善点	事務局（回答）
・教育普及活動については、とても実績をあげていると思う。どの美術館や博物館にも負けない実践をしている。展覧会ごとに違うメニューを考えなくてはならない現状で、その時できることを一生懸命取り組んでいることは称賛に値する。 ・教育普及活動の様子を、新聞記事で拝見する事が、以前より増えた。美術館の魅力の発信になっている。		・浜松市美術館の教育普及として、ここ数年の実践をまとめておくことがあっていいと思う。	・各種研究紀要、学会発表・論文投稿等によって成果を報告している。長期的な経過と成果・課題についても振り返り、今後の活動に反映できるよう留意したい。

3 その他

様々な人に開かれた美術館とし、施設・設備の充実と健全運営を目指します。

(1) 来館者アンケート ※北斎展、新・山本二三展、みほとけのキセキⅡ、第71回市展にて実施

スタッフ対応満足度	施設満足度	施設に望むもの
73%	80%	カフェ 68%、常設展示室18%、収蔵品検索コーナー9%、その他5%
外部評価	改善すべき点	事務局（回答）
・展覧会の満足度が概ね高い数値を示しているのに比べると、スタッフ対応の満足度（73%）はやや低いように感じられる。経年変化を知らないため安易に評価することはできないが、館としてこの数値をどのように分析されているのか、また今後の対応のお考えなどがあればうかがいたい。		・アンケート結果は速やかにスタッフ全員で共有しているが、美術館という施設の特性上来館者に注意していただく点が多いことから「満足」をいう結果につながらないこともあると考えている。理解を得られるよう努めていきたい。

※満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

(2) 美術館設備

令和5年度に実施した修繕等	
自動シャッター修繕 警備用回線修繕 地域遺産センター天井点検口修繕 トイレ排水口修繕 ピープルカウンター設置	展示室棚硝子修繕 既存無線修繕 展示フィルム取替修繕 煙感知器取替修繕 防火扉フランス落とし修繕

外部評価	改善点	事務局（回答）
展示壁面の修理	・壁がボードでおおわれている時は気づかなかったが、壁にそのまま作品を展示していた時、ビスの穴や壁の汚れ等が大変気になった。修理を望む。	・壁のビス穴は、展覧会終了後パテ等で埋めるなどの修繕をしているが、元の壁の色との差が生じてしまう状況である。黒布で壁面を覆ったり、経師パネルを用いて、目立たないように工夫している。
休憩スペース確保 カフェ設置	・毎年多くの方から意見が寄せられ、施設としての事情も聞いているが、前進する案はないものか。 ・カフェ設置要望が多いが、浜松城公園にみられるワゴンでのサービスなども検討していただきたい。	・展覧会規模にもよるが、ロビースペースを活用して休憩スペースを設ける工夫や、企画に沿ったイベント等を検討していきたい。 ・事業者と相談するなど検討を進めてみたが、事業者側の意向や法令等調整事項が多岐に渡るため、現状は困難な状況である。
駐車場からの距離	・駐車場からの距離があることと、坂道のため、真夏は来客者に影響があるのではと感じる。歩く道にミストを設けたり、カフェを臨時に出店するのによいのではないかな。	・駐車場から美術館までの道のりの負担を軽減するための取組について検討していく。

(3) 展覧会等の情報発信

令和5年度に実施した広報活動等			
・ポスター掲示やチラシを配布したほか、展覧会共催者によるテレビCM等を活用した情報発信を行った。新山本二三展・みほとけのキセキⅡ展については、テレビCMによる広報の効果が大きく感じられた。 ・浜松城公園内やどうする家康大河ドラマ館敷地内にA型看板を設置し、また、館内（売店）にもポスターの掲示やチラシ置場を配置し、展覧会情報の周知を図った。 ・ポスターのデザインを決める際には担当だけでなく全職員で見やすさやデザインの観点から決定した。 ・若年層を取り込むため、SNSを活用した情報拡散に取り組んだ。企画会社や作品の借用先と交渉し、来館者に作品撮影の機会を設けるようにしている。館内にはX（旧ツイッター）やFacebook、InstagramのQRコードを掲示して容易にアクセスしやすくしている。 ・若年層に興味をもってもらうようにSNS投稿は柔らかい表現で発信している。近年のフォロワー数の伸びは著しい。（参考：7/30 現在のフォロワー数9,386）			
外部評価	評価点	改善点	事務局（回答）
・対象を考慮した、様々な働きかけが、集客につながっていると思われる。 ・新・山本二三展で広報物作成をデザイン専門会社依頼したことにより、スッキリしつつも現代感のあるデザインに手が伸びた来場者も多かったのではないかなと思われた。 ・SNSを利用したPRは、現代にマッチした取組であり、成果が出ているようである。今後もさらにSNS発信してほしい。 ・SNSの活用について積極的な姿勢が見られ、工夫をされている点、評価される。 ・活発に行うことができ、展覧会の情報発信として効果的に機能していると感じる。	・新・山本二三展で広報物作成をデザイン専門会社依頼したことにより、スッキリしつつも現代感のあるデザインに手が伸びた来場者も多かったのではないかなと思われた。 ・SNSを利用したPRは、現代にマッチした取組であり、成果が出ているようである。今後もさらにSNS発信してほしい。 ・SNSの活用について積極的な姿勢が見られ、工夫をされている点、評価される。 ・活発に行うことができ、展覧会の情報発信として効果的に機能していると感じる。	・美術館の図録は、展覧会の記録として唯一のものになる。同じ作品、同じ展覧会でも専門家のデザインによって伝えることで価値が高く感じることができはすなので、何かを削ってでも予算を確保したほうが良いと考える。 確認はできていないが、来館者が、SNSに投稿して広がりを見せることを期待したい。展覧会内容に対して、否定的な意見も出てくると思うが、新しい視点を見いだすことができるかもしれない。	チラシについては展覧会の情報周知を目的にしており、会期終盤には数が少なくなるが、HPからPDFデータをダウンロードいただくことが可能である。 新・山本二三展でデザインを別注した実績を活かすよう、今後も展覧会予算の範囲内で可能な限り検討したい。 北斎展、みほとけのキセキⅡでは、HP、Xでの情報による来館が全体の20%を占めている。また、新・山本二三展は、HPやX情報からの来館者は15%ではあるが、友人知人から20%を占めていることから、SNSによる広がりを感じつつ、引き続き一般層や若い世代が親しみやすい内容・表現を心掛けていく。

■令和5年度 浜松市秋野不矩美術館評価

基本コンセプト

天竜二俣出身の日本画家で文化勲章を受賞した、秋野不矩美術館の画業を顕彰し、作品や関連資料を展示・保存・調査研究することで全国に広く紹介し、後世に継承していく。

秋野不矩作品の一層の理解と人間理解まで鑑賞の質を昇華させるため、「見の目弱く、観の目強く」をコンセプトに表面的理解や知識伝達のみには偏らない展示及び作品解説を行う。

美術館運営の核となる「多様な価値との出会い」「作品が自己を映し出す鏡」となる役割を果たすよう作品の意図的な展示を図る。

教育普及活動により地域住民の美術をはじめとする芸術文化振興を図る。

地域の関係団体や企業、学校、商店街等と連携し、浜松市や天竜地域への来訪を促し地域振興へつなげ

総評

所蔵品展は、秋野不矩作品への理解が深まるよう館のコンセプトや年度テーマ、所蔵品展テーマ、見どころを具体的に示す展示を行った。あわせて、新たな日本画表現を目指す画家であったこと、母であったこと、激動の社会を生き抜いた女性であったことを画業、生き方など様々な視点を焦点化した展示を行った。特に、下描きと本画を並べて展示することで構想から本画までの思考の変化などを捉えやすくする工夫をし、表現意図や造形的な作品構造の意図をわかりやすく解説することを心がけた。下絵、素描の展示活用により本画作品点数を調整することができ、それぞれの作品を休ませる期間を少しずつ増やすことにつながり作品劣化軽減を図った。

特別展は、秋野不矩が目指す表現が共通する作家らを若手を含めて取り上げたり、伝えたいメッセージやテーマを一にする作家を取り上げたりした。これにより、秋野不矩の作風や表現意図を、時代ごとの価値観や社会的背景から、作品だけでなく人間性や日本画表現の歴史的変遷も辿って多面的多角的に理解する展覧会ができた。

教育普及活動や各種事業の質的充実が図られるようになってきた。今後も作家と子供たち、秋野不矩と地域、秋野不矩の表現と子供たちの強化の学びをつなぐ活動を充実させていきたい。

1 展覧会

優れた美術を鑑賞できる展覧会を開催し、来館者の裾野を広げます。

(1)所蔵品展《見の目弱く、観の目強く》

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
「地」の声を聴く いのちの輝き～ざらざらと～	R5/4/1～4/16	133日	7,898人 59人/日	10,000人	79%	94%
「水」の声を聴く ～いのちの源～	R5/4/22～5/28					
「風」の声を聴く ～古からのいのち～	R5/8/5～9/3					
「火」の声を聴く ～いのちの煌めき～	R5/11/14～12/24					
「空」の声を聴く ～いのち・創造の原点～	R6/1/4～1/31					

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

内部評価

成果	改善点
・所蔵作品のキャプションを昨年度に続きリニューアル。解説を拡充し、秋野不矩の生き方や不矩を取り巻く様々な人間関係、作品制作当時の時代背景や、女性として母としての人間性をわかりやすく伝えられるよう工夫した。複数回展示する作品には、同じ表現で解説しないよう配慮し、リピーターにも満足感を提供できるよう対応した。作品目録は、昨年度からさらに改善し、文字の大きさ・キャプションサイズ、各回の企画やそのコンセプトをわかりやすく見やすい記載を心がけることにより来館者に作品への理解を一層深めていただけるよう配慮した。 ・コンセプトや見どころ紹介揭示、キャプションの撮影許可を求める来館者が現れたり、来館者の鑑賞時間が全般的に長くなったり、来館者の鑑賞の質の変化を感じることができた。テーマを設けて展示することにより、展示作品の見せ方にも明確な視点を示すことが容易になった。また、具体的な解説を入れたことで、教育活動に結びつけたいと考える方から依頼があり研修会へつながった事例もあった。 ・展示コンセプトを展示室内に掲示することで、メモをとる方やスタッフに質問する方が増えるなど、時間をかけてじっくり鑑賞する来館者が増えた。 ・所蔵品展会期中、市民ギャラリー使用予約がない場合に限り、落札照信パネル展を実施し来館者に好評であった。	・小規模美術館のため、特別展開催中は、秋野不矩作品の展示数が限定されてしまう傾向にある。このため、常設展示を望む声が比較的多い。しかし、日本画は作品劣化を防止するため展示期間は40日が限度であり、常設展示は難しい。日本画作品の保存のため、日本画の特性理解と100年後も現状と同じ状態で作品を鑑賞できるよう一定期間作品を休ませることに対する理解に向け周知を図っている。今後も継続的に周知していくための工夫が必要であると感じている。 ・外国から来館された方は、キャプションにスマホをかざし、翻訳アプリで読み込んでいる方が増えている。今後、多言語化に向けてどのように対応していくか、対策を講じる準備をしていきたい。

外部評価

評価する点	改善点	事務局（回答）
・テーマを決めて、それに沿った展示をすることは、漠然と秋野不矩作品を見るより、より理解が深まり興味深いものであった。 ・作家名を冠した美術館では、不変に作家の価値を伝えるのと同時に、お客様に何度も足を運んでもらうための新鮮さを提供することが求められ、そのバランスをとることに工夫を要するが、展示テーマの揭示や解説のリニューアルなど、来館者に秋野不矩の魅力を効果的かつ新鮮に伝えるための努力をされている点、おおいに評価される。 ・展覧会のタイトルが、魅力的で鑑賞する意欲が湧くものである。 ・所蔵品について視点を設けて展示することは、大変良いと思う。研究成果を発表する場と考え、同じ作品でも、色や形、年代、場所など様々な視点でとらえることができると思う。来館者の楽しみになるよう積み重ねが必要である。	・1日の入館者数が、特別展は所蔵品展の2倍以上になっている。これは、PRの仕方の違いか、他の要因かなど、どこに原因があるのか分析する必要があると思われる。 ・劣化しやすい日本画作品を主に扱う館として、公開と保存の調整は常に課題となるが、展示期間を適切に制限すべく努力されている。作品をよい状態で後世に伝えることは地味ながら美術館の最重要の役割のひとつであり、今後とも大切にしていきたい。 ・展覧会の視点到合させたキャプション内容は重要であり、秋野作品の新たな魅力に迫ることができたと来館者が感想を持つことができるようにしたい。	・特別展に興味を持っていたことや、新聞・TV・ラジオ、雑誌等の積極的な広報によると思われる。 ・ご指摘の通り所蔵品展においても、特別展と同様の熱量で広報するなどの工夫が必要であると考えている。不矩の会からも所蔵品展の広報や集客努力のについて要望が出ている。本年度の所蔵品展は、区長の協力を得てインフルエンサーから広報いただいたこともあり、前年度よりも来館者数は増加している。 ・所蔵品を頻繁に展示する傾向にあったので、100年先も現在と同じ状態で鑑賞できるよう努めたい。 ・素描や不矩の言葉、資料を多めにしていくことで本画を休ませる工夫を継続したい。 ・展覧会のタイトルは毎回よく練って提示するように心掛けている。特に「創造の源」となっているものを解き明かせるようにしたい。 ・同じキャプションを使い続けることなく、毎回、アップデートしてマイナーチェンジを図っている。

(2)特別展

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
秋野不矩・金子富之が描く アジアの神々	R5/6/17~7/30	38日	4,013人	5,000人	80%	94%
加山又造と継承者たち —新たな地平を求めて—	R5/9/16~11/5	44日	4,869人	6,000人	81%	90%
上村松篁が描く万葉の世界 『額田女王』挿絵原画展	R6/2/10~3/24	38日	5,414人	6,000人	90%	92%

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

内部評価

成果	改善点
■秋野不矩・金子富之が描くアジアの神々 ・秋野不矩と金子富之、世代も作風もまったく異なる二人の日本画家がアジアの神々や信仰を題材として描いた作品を展示。日本画の伝統にとらわれない精神と、アジアを見つめ、厳しい環境の中でたくましく生きる人々の生活と密着した神々をテーマとしたところが共通する。不矩作品と金子作品の対比により、不矩の慈愛に満ちた眼差しを改めて紹介することができた。 ・妖怪や精霊、神々など目に見えない存在を描き出すことで注目される日本画家・金子富之を多くの方に知っていただく機会となった。金子の対策は、当館第2展示室の空間で圧倒的な存在感を放ち、これまでにない展示となった。不矩の《オリッサの寺院》《ヴァラーハ》とともにさながら神殿のような展示空間となった。	・順路がわかりづらいとの指摘があり、表示を増やすなどの対応を行った。 ・一般にあまり知られていない作家であり、作品自体の魅力を紹介することができれば来館者数を伸ばすことができたのではないかと。事前広報だけでなく、開幕後の展示風景やギャラリートークについてSNS発信を増やしたい。会期半ばや後半にもイベントを開催できるとよかった。 ・アンケートでは、不矩作品と金子作品を合わせて展示することについて、金子作品が強すぎて不矩作品がかすんでしまうというような否定的な意見も数件あった。何を感じ、どのように観るのかについては自由だが、ギャラリートークなどを通し、少しでも作品や作家についての理解を深めていただくことが来館者の満足につながるのではないかと。
■加山又造と継承者たち ・秋野不矩が創立メンバーとして活躍した創画会の第2回展に初入選した加山は、常に革新的な作品を生み出すと同時に、後進育成にも力を注いだ。この展覧会では作品を通じて、加山の革新と挑戦に迫るとともに、加山の指導を受け、現在の画壇で活躍する作家たちを紹介することで現代日本画の潮流を知ることができる展覧会となった。 ・市川裕司、吉澤舞子は、本展覧会に出品した新作がきっかけとなって第9回日経日本画大賞展に入選した。若手作家が多くの人に知られるための作品発表の場として、当館が機能したことは、広く日本芸術界への貢献となった。	・秋野不矩と直接関係のある作家ばかりではなかったため、展覧会の意図がわかりづらく混乱する来館者がいた。説明を丁寧に言う必要があった。 ・秋野不矩作品を観たくて来館した人から展示作品が少ないと不満の声があった。今後の特別展ではバランスを考えて構成したい。
■上村松篁が描く万葉の世界 『額田女王』挿絵原画展 ・秋野不矩とともに創画会の創立メンバーのひとりとして画壇で活躍した上村松篁が井上靖の小説『額田女王』の挿絵として描いた作品に加えて、花鳥画家として活躍した松篁の代表作に挙げられる本画も展示し、幅広い画業を紹介することができた。 ・松篁の挿絵を展示することにちなんで、2階の展示室では秋野不矩が描いた絵本『いっすんぼうし』の原画を展示した。秋野不矩に対してインドをテーマにした作品のイメージを持っている人も多いが、渡印後に制作された『いっすんぼうし』の原画は日本画の技法を活かして描かれており、秋野不矩の違った魅力を紹介する機会となった。	・歴史小説を元に描かれた作品だったため、ストーリーを紹介するためのキャプションの文字数が多くなってしまった。 ・小説の登場人物が多いため、展示室内に主要登場人物の関係図を一カ所設置したが、複数箇所に設置しても良かった。何度も関係図に戻っている来館者があった。

外部評価

評価する点	改善点	事務局（回答）
■秋野不矩・金子富之が描くアジアの神々 ・金子作品のスケールが大きく迫力があつた。秋野作品が別の角度で鑑賞できたと思う。	・開幕後の発信は増やすべきだと思う。	・令和6年度は、新聞社やラジオ、テレビ(ケーブル含む)等の広報回数を増やし多くの発信をしている。また、天竜区長の協力によりインフルエンサーが特別展ごとに広報し来館者数が向上している。SNS、Instagram等の発信も増やしている。
■加山又造と継承者たち ・秋野不矩と直接関係のある作家以外でも日本画の現在の潮流を示す意味はある。全体としていずれの展覧会も良い企画だったと思う。 ・日本画の若手の新作発表の場となったということで、現代日本画の若手の活躍を後押しできていることは、学芸やキュレーションとしても非常に大きな意味を感じられる。	・作品の展示点数やタイトルなどを事前に様々な媒体などで告知するなどしたらよいと思う。	・ホームページやチラシには作品点数や主な出品作品を紹介しているので、幅広い広報を心掛けたい。 ・今後も、若手作家の発表の機会を創り出していきたい。不矩の会とも相談しながら、実施していく。
■上村松篁が描く万葉の世界 『額田女王』挿絵原画展 ・絵と共に、当時の時代背景が説明されていて、知るきっかけとなり、とても興味深く見ることができた。 同時に開催されていた秋野不矩の絵本原画「いっすんぼうし」展も、とてもよかった。 ・キャプションの文字数が多くなったことが書かれていたが、歴史小説ということなので仕方がないかもしれない。むしろ原作の小説を知らなかった鑑賞者でも世界観に親しめるような文字と絵のマリアージュであればよかったのではないかと考えた。	・登場人物図は配布資料に印刷するのも良かったかもしれない。	・古典がテーマの特別展では、時代に合わせた不矩作品を展示したいと考えているため、今回は絵本原画を活用した。 ・関係図については、目録内に収めるスペースがなかったため、掲示することとなったが、何か所かに掲示する必要性を感じた。
■特別展全体を通して ・秋野不矩と関係する作家と対比して展示することは関係する作家はもとより、秋野不矩の特徴を際立たせる成果があつたと思われる。また、それらの作家を知ることができたことは、有意義であつた。 ・テーマを決め展示することが、その特徴をより理解するのに繋がった。 ・秋野不矩を軸として多様な特別展が開催されており、館の基本コンセプトに基づいて丁寧に企画立案がなされている。 いずれの展示においても来館者の満足度は高い数値を示しており、工夫が実を結んだものと考えられる。 ・顧客満足度がどの展覧会も90%を超えている点が素晴らしいと思います。美術館の皆様の尽力の賜物である。		

2 教育普及活動

市民の感性を育むため、美術に触れる機会と他者とのつながりを提供します。

(1) 団体鑑賞

内容		参加者数、実績（人）	
学校、地域の諸施設や、全国からの観光目的の団体来館・鑑賞を受け付ける。 希望する団体向けに秋野不矩の人物や作品、当館建築をより知っていただくための解説を実施。		917人（見学前ガイド実施人数）	
内部評価	成果	改善点	
・希望団体には見学前ガイドを開催。令和5年度は45団体の希望があり、900人以上に実施した。「館長によるガイドが良かった」という知人からの口コミで来館した団体があった。ガイドが来館者の満足につながった。 ・見学前のガイドにより、最初に秋野不矩や当館の建築について学び、見学する上でのポイントを知ることにより有意義な見学・鑑賞を提供できた。 ・団体来館申込書の書式を見直し、事前に領収書の有無や人数内訳などを把握し、合わせて見学時の注意事項や観覧料を伝えることで当日の入館受付の時間短縮や所蔵品展と特別展の料金の勘違いなどトラブル防止につながった。		・施設が小さいため、団体人数が30名以上になると室内が大変混雑してしまう。時間差で入館いただいたり、見学順序を1階からと2階からに別れて入館いただいたりしている。混雑時でもできる限り団体来館者とそれ以外の個別来館者の満足度を下げないよう、今後も工夫して対応したい。	
外部評価	評価する点	改善点	事務局（回答）
・来館者の満足につながる良い企画である。 ・鑑賞団体向けの見学前ガイドが好評で、多くの人が来館してくれたことは、非常に良い傾向だと思う。 ・口コミで広がるくらいの館長の話、日々美術館の発展を考慮されている成果だと考える。お話をうかがってみたい。		・一般来館者への配慮が必要かと思う。 ・年間一回でいいので、現地で参加することができない人のために配信の対応をしていただきたい。	・団体客に対して、時として騒がしさを感じる一般来館者がいる。団体客へ見学前に音が響きやすい環境であるため静かに鑑賞していただくようお願いしている。継続して配慮していく。 ・見学上の諸注意やマナー面での配慮の伝達なども併せてできるので、今後も丁寧に行っていきたい。 ・来たくても来られない方のために、配信できる工夫をしていきたい。著作権もあるため、今後の対応は不矩の会と相談しながら進めていく。

(2) ギャラリートーク

内容		参加者数、実績（人）	
展覧会担当学芸員や作家等が展示内容について解説する。 ・学芸員解説：上村松篁展 ・作家等解説：アジアの神々展（金子富之） ：加山又造展（出品作家5名及び学術協力者）		123人	
内部評価	成果	改善点	
・特別展ごとに出品作家または学芸員によるギャラリートークを実施し、来館者に作家とその作品や展覧会テーマへの理解を深めていただくことができた。 ・館長が展示室の監視に入る際は、できる限り来館者の理解を深められるよう解説やトークを取り入れた対応を行った。		・所蔵品展では、館長が個別・グループごとに解説することはあってもホームページ等で事前に広報していなかった。解説がアンケートで大変好評のため、今後はトークイベントを企画・実施していきたい。また、特別展でもトークを目的に来館する方も多いため実施回数増を検討する。	
外部評価	評価する点	改善点	事務局（回答）
・見学前ガイドやギャラリートークを積極的に実施しており、これらが来館者の満足度につながっていると思われる。ご努力が評価される。		-	-

(3)講演会

内容		参加者数、実績（人）
上村松篁が描く万葉の世界『額田女王』挿絵原画展に関連する、歌人「額田王」の人物と歌についての講演会を開催。 講師：花井しおり（人間環境大学心理学部教授） 会場：天竜壬生ホール会議室		46人
内部評価	成果	改善点
・講師の関係者が講演会を広報したことがきっかけで、初めて秋野不矩美術館を訪れた方が複数あり、県外からの参加も見られた。 ・万葉集から「額田王」を読み解いたため、最新の学問としての「額田王」を学ぶことができた。 ・また、その周辺の歴史的事象や当時の習慣など幅広い知識を得ることができ、講座を受講することでより深く展覧会を楽しめるような講演会となった。		・会場の都合上、事前申込制で定員50名としたが、開催前に定員に達したため申込をお断りしなければならなかった。（当日欠席あり）また、会場はほぼ満席のため、窮屈感が否めなかった。今後は、会場設定を検討したい。

(4)ワークショップ

内容		参加者数、実績（人）	
・夏休み絵手紙教室「自由に〇〇を楽しもう」 小学生を対象に水彩絵の具や顔料を使って描く楽しさを感じてもらう絵手紙ワークショップを開催 会場：天竜壬生ホール会議室		23人	
内部評価	成果	改善点	
・講師は幼稚園でも絵手紙教室を開催しており、講座の最初の解説では、子供たちが楽しめるような声かけを行うなど、小学校低学年から高学年まで気軽に制作できた。 ・日本画で使用する顔料を用意していたため、意欲的な子は「顔彩」を使用した作品制作にチャレンジしていた。		・作品を仕上げるのが早い子にとっては持て余す時間があり、消しゴムによる落款づくりの道具を用意したが、小学校低学年の子には文字を反転させて制作することが難しかった。	
外部評価	評価する点	改善点	事務局（回答）
・出張講座として絵手紙や顔彩のワークショップなど実技研修をおこなっている。小学生対象講座や幼児教育に関する講演など、近隣に同様の施設が少ない地域性からか、小さな個人名の美術館とは思えない芸術文化施設として地域の教育普及活動を地道に行っている点が評価できる。		・美術館近隣の学校の美術教員などとの連携を行い、和紙、顔彩、岩絵具など様々な関連する材料を使用した美術造形活動の可能性を探るなどができればなお教育普及活動に幅が出る可能性がある。 ・子供向けだけでなく大人向けも企画していただきたい。水彩絵の具や顔料を使って描く楽しさや、絵手紙として、送る相手を思い浮かべながら描くことも、よい経験になると感じる。	・日本画作家のご厚意により実現でき、感謝している。また、道具の扱いを丁寧にすることの重要性も話され、子供たちにとっては貴重な時間となった。また、日本画を専攻する高校生も各グループに入り、子供の表現に共感的に関わってくれたことにも感謝したい。 ・一般の大人向けワークショップはよい企画であるため、前向きに検討していきたい。また、図工・美術の教員向け実技講習会では、日本画の技法を子供たちに伝えるワークショップを3年間継続実施している。絵手紙や日本画体験などハードルを上げずに、楽しく表現する体験の場となるよう工夫していきたい。

(5)教育普及講演会

内容		参加者数、実績（人）	
秋野不矩の画業の顕彰とともに美術教育や幼児期の表現についての理解や支援に関する講演会を開催 （磐田市立東部幼稚園、掛川市教育センター、二俣幼稚園他）		104人	
内部評価	成果	改善点	
・実技研修では、秋野不矩が使った琳派の技法である垂らし込みや滲みなどを「ウェットインウェット」や「バックラン」という表現で小中学校の図工・美術で使える技法を伝えている。 ・自分の感覚を大切にすること、表現を否定しないこと、子供の働かせたい力を認めることを指導や支援に活かすことの重要性を伝えた。 ・幼児教育において、絵の具を用いた表現をする際は色を混ぜると別の色になることを共感的に寄り添う姿勢や「共同注視」「驚く心」を指導者側も忘れないよう講話した。 ・年々、講師依頼件数が増加している。		・講話の時間と実技の時間との調整が難しい。また、依頼時期が夏季休業始めがほとんどのため、日程の調整が難しいケースが増えている。	
外部評価	評価する点	改善点	事務局（回答）
・秋野不矩の画業と実技研修の試みが素晴らしいと思う。		・講師依頼が増加傾向にあるという教育普及講演会についても少し詳細を教えていただけるとありがたい。 ・小学校4年生の社会科では、地域の偉人として秋野不矩が紹介されている。ぜひ、浜松市の小学校と交流することを積み重ねていただきたい。	・現在、静西管内(焼津から湖西まで)で日本画の技法を小中学校の授業レベルに対応した実技講習会を3年間実施してきている。絵の具の足し算ばかりの表現からひき算もできることを教員に伝えている。 ・市内小学校社会科教員研修会場として利用されている。近隣の小学校では学年単位での学習会が実施されている。

(6)インターンシップ受入れ、教育プログラム受入れ

内容		参加者数、実績（人）	
県内・近隣県大学の学生等インターンシップの受入れ 職場体験・校外学習・教職員研修の教育プログラム等の受入れ		115人	
内部評価	成果	改善点	
・大学生インターンシップ：1名 ・高校生職場体験：3名（天竜高校2年生） 地元学生に美術館監視業務や受付補助業務等の体験を通して、芸術文化に携わる仕事において大切にしていることを学んでもらい、当館について知ってもらうとともに教育活動に協力することができた。校外学習では、希望する学校には見学前ガイドを実施した。		・校外学習では希望に応じて見学ガイドを実施したが、鑑賞体験を深めてもらうため他にも学習メニューを用意するなど工夫の余地がある。（子供向けギャラリートークやワークシートなど） ・実習は対応可能な職員に限られるため、実習希望が増えるのは良いことだが、件数が増えたと対応が難しい。どの時期にどのくらい受入れが可能か見通しを立てておきたい。	

(7)ミュージアムコンサート

内容		参加者数、実績（人）	
作品を鑑賞しながら音楽を楽しむ館内ミニコンサート。 市内演奏家を起用して、新規層の来館を促進。 ・12/16 3公演 出演 大人のライアー倶楽部（6名のライアーアンサンブル）		106人	
内部評価	成果	改善点	
・美術と音楽のコラボ事業「ミュージアムコンサート」を昨年度に続き開催した。新たなファン層の獲得につながった。 ・当館展示室の響きの豊かさと不矩作品が創り出す空間で特別な時間をお楽しみいただくことができた。 ・出演者が運営する音楽教室の生徒など関係者や一般来館者でコンサートを目的に初めて来館する方も多数見られた。		・演奏時間が20分の予定のところ、1回目は30分を超えてしまった。作品をじっくり鑑賞したいという来館者にも対応できるように1回の時間をあえて短めに設定しているため、奏者との事前調整をしっかりとしたい。 ・聴く人数が増えると来館者と作品の接触リスクが高まるため、コンサート当日は監視スタッフを増員して対応できるようにしておく。	
外部評価	評価する点	改善点	事務局（回答）
・美術と音楽はいい組み合わせであり、良い企画だと感じる。		・秋野不矩美術館の魅力は、展示と建築が一体となったトータルの体験が堪能できる点による。ところが大きいと思われるので、ミュージアムコンサートなど、美術館を場としてここでも味わえない体験を提供することについては、今後も期待される。 ・職員負担になると思うが、夜間休日での開催を検討してはどうか。	・美術館ならではの取り組みを継続できるよう工夫ある事業を展開したい。 ・ミュージアムコンサートは基本的に休日に行っている。以前は屋外で照明を当てインド舞踊とシタール等の演奏も交えて行ってきた。指定管理の3年間は、予算の関係でインド音楽は実施できていない。

3 その他

様々な人に開かれた美術館とし、施設・設備の充実と健全運営を目指します。

(1)来館者アンケート

スタッフ対応満足度	施設満足度	施設に望むもの
94%	97%	カフェコーナー51%、常設展示室28%、図書コーナー16%、その他5%
外部評価	評価する点	事務局（回答）
・アンケートの満足度はいずれも高い数値を示しており、評価される。調査の方法について参考までに教えていただきたい。		・来館者にアンケートの協力いただけるよう受付時から呼びかけを行い少しでも来館者の声が反映できるよう意見等を集めている。

※満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

(2) 美術館設備

市民ギャラリー貸出実績		令和5年度修繕の状況
所蔵品展期間中のみ実施 令和5年度：10団体 利用率は昨年比33.3%増 利用者数は9割増 ホームページでの利用案内や空き状況表示が成果をあげている		指定管理者実施分 ・屋内消火栓ホース取替修繕 ・非常照明器具取替修繕 ・アプローチ坂入り口木製手すり修繕 ・屋上屋根コーナーカバー修繕
外部評価	評価する点	事務局（回答）
カフェ等		・相手方に利益が生じる時期に実施する配慮が必要と考えている。多くの来館が期待できる特別展の土日等に行うなど準備を整えていきたい。
展示室	以前、展示場所での土足スペースを増やし、好評であったと聞いているが、その後デメリットである床の汚れなどに影響がなかったか確認してほしい。	床はモルタル仕上げであるため、汚れは落ちやすく管理しやすい。
ピープルカウンター	ピープルカウンターは、浜松市美術館に設置され、「新・山本二三展」で有効であったと評価されている。秋野不矩美術館においてもゆとりある鑑賞に貢献できるものと思われ、設置を希望したい。	カウンターを使わなければならない状況というわけでもない。AIによる画像・映像解析を使った人数カウントが安価に設置できるようになったら考えたい。
駐車場からの距離	・駐車場からの距離があることと、坂道のため、真夏は来客者に影響があるのではと感じる。歩く道にミストを設けたり、カフェを臨時に出店するのもよいのではないか。	駐車場から美術館までの道のりの負担を軽減するための取組について検討していく。
建築・設備	藤森照信の作品としての美術館は素晴らしい。大変すばらしい建造物であるので、大切に保存して行ってほしい。SNSで風景とともに日々紹介することも検討してほしい。	築27年が経過しようとしているので、計画的な修繕、更新工事を行っていき、長く愛される館を維持したい。 インターンシップで来館した市内の大学生から、学生目線の魅力的な風景やビューポイントを紹介しているので継続していきたい。

(3) 展覧会等の情報発信

令和5年度に実施した広報活動等			
・ 展覧会年間スケジュールパンフレットの制作・配布を実施。 ・ 特別展のポスター・チラシとともに全国の美術館、美術系教育機関、メディア、市内施設、学校、観光施設、ホテル等へ発送 ・ 公式ホームページサイトの管理運営及びSNSによる情報発信。 ・ フォロワー数：インスタグラム 800人、X 333人（3/31現在）SNSによるイベント告知を見た来館者も複数あった。 ・ メディア取材対応・雑誌等の記事掲載。 ・ 新聞、ラジオ、ケーブルテレビ、市議会だより、美術関係月刊誌等への情報提供。地元紙以外にも全国紙、建築雑誌、イベントお出かけ情報誌、ファッションブランド撮影など対応。展覧会情報にとどまらない広報を充実させた。 ・ 特別展では、共催メディアによる新聞広告・テレビラジオCM・記事掲載の他、JR・遠州鉄道・天竜浜名湖鉄道へ交通広告を掲出し、情報発信。			
外部評価	評価点	改善点	事務局（回答）
・ 地元の秋野不矩作品、藤森照信建築の魅力を広く発信し続けることは、素晴らしいと感じる。地域とのつながりを今後も強化して行ってほしい。 ・ 職員数が限られていると思われる中、SNS対応も行っており、建築系雑誌やファッションブランド撮影など発信の方向性にさまざまな広がりが見られる点が評価できる。		・ 秋野不矩やその周辺の創画会作家のファンは一定数いるのではないかと考えられるので、友の会的なグループやふるさと納税などのオプションなども考えられる。	・ 秋野不矩ファンは一定数見られるので、工夫したオプションを考えていきたい。 ・ 様々な発信の在り方や工夫について、情報収集し、スキルを高めていきたい。